平成　28　年度

事務事業評価シート

（　　学校教育課　　）

（　学校給食調理場　）

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目　次

1　授業の充実
（　１　）　教育振興会補助事業　**【削除】**　・・・・・・・・・　1
（　２　）　学力向上指導員の配置　・・・・・・・・・　2
（　３　）　社会科副読本の発行　**【削除】**　・・・・・・・・・　3
（　４　）　学力向上支援事業（人財育成助成金）　**≪新規≫**　・・・・・・・・・　4
2　道徳教育の充実
（　１　）　スクールカウンセラーの配置　・・・・・・・・・　5
（　２　）　ふれあい教育フェスティバル　・・・・・・・・・　6
3　特別活動の充実
（　１　）　小・中作品展の開催及び音楽交歓会の開催　・・・・・・・・・　7
4　体育・健康教育の充実
（　１　）　バイキング給食の日　・・・・・・・・・　8
（　２　）　学童スキー大会の開催　・・・・・・・・・　9
（　３　）　大会派遣費補助事業費　・・・・・・・・・　10
5　生徒指導の充実
（　１　）　生徒指導委員会の充実　・・・・・・・・・　11
（　２　）　小１プロブレム、中１ギャップの解消　**【削除】**　・・・・・・・・・　12
6　キャリア教育の推進
（　１　）　職場体験　・・・・・・・・・　13
7　特別支援活動の充実
（　１　）　スクールサポーター配置の充実　・・・・・・・・・　14
8　エネルギー・環境教育の推進
（　１　）　エネルギー教育の整備　・・・・・・・・・　15
9　国際化、情報化に対応する教育の推進
（　１　）　英語で元気な町づくり事業　・・・・・・・・・　16
（　２　）　まちづくりＡＬＴ派遣事業　・・・・・・・・・　17
（　３　）　児童生徒及び教師へタブレット端末導入に向けた検討　・・・・・・・・・　18
10 研修の充実
（　１　）　教職員ふるさと研修　・・・・・・・・・　19
11 教育環境の充実
（　１　）　野辺地町立小中学校耐震化事業　・・・・・・・・・　20
（　２　）　学校施設営繕・設備保全　・・・・・・・・・　21
（　３　）　教材備品の整備　・・・・・・・・・　22
12 その他
（　１　）　給食費の未納対策強化　・・・・・・・・・　23
（　２　）　就学援助費事業　・・・・・・・・・　24
12 教育委員の活動　・・・・・・・・・　25
13 学校支援活動
（　１　）　学校支援センター（学校支援推進事業）　・・・・・・・・・　26
14 学校保健の取組み
（　１　）　児童・生徒各種健診及び教職員特定健診　・・・・・・・・・　27

事務事業評価シート

施　策　名	授業の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教育振興会補助事業	担当者名	冨吉卓弥

事業の目的・内容	野辺地町教育委員会の外郭団体として、学校と地域社会が相互に連携・協力し、本町の教育・文化の向上を図ることを目的とする。			
事業の対象	各学校教職員及び児童・生徒　社会教育委員 平成27年4月から平成28年3月			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	920 千円	千円	千円

事業の実績・成果等（数値）

- 学校教育部会（小・中作品展、小・中音楽交歓会、学童スキー大会、生徒指導委員会、小・中連携事業）
- 小学校スポーツ文化活動（3小学校）　部活動の助成や各種大会の参加料にあてた
- 教職員研修（3小・中学校）　各学校ごとに教員の資質向上に努めた
- 特別支援教育事業委員会　特別支援クラスの親子の交流会を実施
- 小中連携事業　出前事業や児童・生徒の交流会実施
- 社会教育部会

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

○各部会とも事業及び教師の資質向上に積極的に努力した。
○小・中作品展では、展示方法など改善が図られた。
○小・中音楽交歓会では、野辺地高校のゲスト出演により、小中高の連携が図られた。

事業の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

【削除】

事務評価委員の評価

総合評価	―	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		―	―	―	―	―	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

他の事業と重なる部分があるので評価から除外しても良いと思う。
参加した人からの感想が知りたい。
この事業にかかわらずであるが、担当者の評価が低い事業がある、この場合、評価委員としてこの事業が必要かそうでないかを担当者の考えをこの評価で汲み取っていかなければと感じた。

評価委員意見（平成28年度）

平成２８年度から削除
評価なし

事務事業評価シート

施　策　名	授業の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学力向上指導員の配置	担当者名	原　裕平

事業の目的・内容	学力の向上を図るため教職員への指導及び児童生徒へ直接学習指導する職員を配置する。 非常勤の指導員を1名配置。小中学校へ訪問し授業風景を観察、その後に教職員へ指導方法等について助言する。 その他、校内研修などにも活用されている。
事業の対象	教職員及び児童生徒。

事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	1,030 千円	1,585 千円	2,822 千円

事業の実績・成果等（数値）	先生方は様々な研修や発表の経験を積んでいるが、定期的に指導員が訪問指導することで、良い刺激となることを期待している。 ・学校訪問指導（町内小学校）　実施日数延べ162日 ・土曜日学習会（中学生対象）、数学・英語の学習（場所：中央公民館） 参加者：延べ126名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価		
	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	学力向上指導員からの報告は、校長会へ情報提供しており、学校運営に活用されていると思われるが、指導助言については教職員個々人の受け止め方による。良くも悪くも刺激となっていると思われる。 本来でれば、教育事務所からの指導主事の配置が望ましい。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	C	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

教員の考え方の幅が広がるので継続してほしい。
指導員一人だけでなく複数の指導員が関わることで指導に偏りが生じないようにしてみてはどうか。
指導を受けた先生の感想が知りたい。
先生方の指導力の一助となると思うが、まだまだ検討が必要かなと感じる。
担当者の方で具体的な様子について把握していなかった、一人で指導だとどうしても偏りが生じる。先生方非常に忙しい中で指導を受けているという現状、土曜日の学習会は若葉小学校の出身の生徒であるということ、是非、野小、馬小出身の生徒も学べる環境づくりにしてほしい。今後、指導者の人員を充実さてもらいたい。

評価委員意見（平成28年度）

指導員が頑張っておられるが、１人だけでなく複数の指導員を配置してお互いに情報交換しながら指導した方が、指導に偏りが生じなくてよいのではないか。
指導される先生方も、参考意見として指導員の意見を聞けばよいと思う。
参加者が増えない原因のリサーチを行ってはどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	授業の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	社会科副読本の発行	担当者名	木村卓磨

事業の目的・内容	小学校３・４学年の社会科の学習において，地域の自然や地理的環境、社会的事象等について、関心を高め、理解を深めさせるとともに、地域社会の一員としての自覚をもたせ、地域社会に対する誇りと愛情を育てるために社会科用図書を作成することで、学校教育の充実に資するものとする。			
事業の対象	小学３年生、４年生対象			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	3,702 千円	千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	○編集員会の設置　委員10名（教職員8名、有識者3名） ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ1名（上北教育事務所） ○委嘱期間　平成26年9月11日～平成28年3月31日 ○会議の開催　平成26年度　3回開催　平成27年度　2回開催 ○印刷部数　700部

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	H27年6～9月に編集委員会会議及び各委員編集作業を行い、9～10月に入札入稿した。10月から業者と確認しながら校正等作業を随時進め、H28年2月に印刷発行。3月に各校へ配布し、4月から使用予定であったが、訂正作業を行ったことにより5月に配布した。ここまで野辺地小学校に325部、若葉小学校に305部、馬門小学校に70部配布を完了している。
事業の方向性	□ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　■ 事業完了

【削除】

事務評価委員の評価

総合評価	―	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		―	―	―	―	―	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

作成するにあたり、先生たちの労力が非常にかかった。
電子媒体で動画なども録画できれば良かった。
先生方、非常に時間がない中で、前回のデータも揃っていない。いざ、出来ても発展的な活用がされない。
５年後、また、作成されるとのことなので事業は完了というものの今後も継続するものと位置付けられる。
次回、作り方を工夫してほしい。
資料館発行の歴史本がある、野辺地に触れた県の本、それらと合わせて統一性を持たせてほしい。くいちがっている場合もある。
本を作ったということで事業に関してはＡだが、今後のことも考えてデータ化しなかったことでＢ。評価の仕方がよく分からない。

評価委員意見（平成28年度）

平成２８年度から削除
評価なし

事務事業評価シート

施　策　名	授業の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学力向上支援事業（人財育成助成金）	担当者名	原　裕平

事業の目的・内容	町内の高等学校に在籍している生徒のうち、国公立・県立大学の入学試験を受ける生徒を対象に、夏季冬季休業中を利用して民間の学習塾が実施している短期間講習会を受講する経費を、町から高校へ助成金を交付する事業。 目的は、生徒の学力向上、町内高等学校の進学率向上とそれに伴う高校の魅力づくりを図ること。
事業の対象	町内の高等学校に在籍している生徒。

事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	0 千円	276 千円	2,125 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２８年度からの新規事業。　初年度は高校側への説明及び周知に時間を要したことから、募集定員１０名に対し３名の実績となった。 ・受 講 者　野辺地高等学校２年生　３名　・受講先　河合塾仙台校 ・受講期間　H29.1.2～H29.1.6(4泊5日) ・助成金額　276,150円 （内訳 受講料132,450円、交通費56,820円、宿泊料86,880円）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い

評価説明及び考察、課題	単年度で成果が現れるわけではないので、少なくとも3年間は実施したい。 平成２８年度は周知が遅かったため、冬季講習会からの実施となったが、 次年度からは夏季講習会から実施したい。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

≪新規≫

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		C	C	C	C	C	―

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

平成２８年度からの新規事業。

評価委員意見（平成28年度）

参加者３名は少ない、周知不足。高校側と連携をとって参加者を増やして欲しい。
よい事業なので、取り組み方でもっと効果がでると思う。

事務事業評価シート

施　策　名	道徳教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	スクールカウンセラーの配置	担当者名	冨吉卓弥

事業の目的・内容	いじめや不登校児童生徒の問題行動等の対応にあたっては、学校におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることが重要な課題となっており、このため、専門的な知識、経験を有する「スクールカウンセラー」を配置することで教育相談体制の充実を図るものである。			
事業の対象	野辺地中学校　１名配置			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）

・予算については、県費負担。
・配置拠点校及び配置人数は、野辺地中学校に１名。（年間４０日）
・述べ相談者数は、１１５名。
・相談内容としては、不登校や家庭環境についての相談が多い。
・平成２９年度は、野辺地小学校にも配置。（年間１２日間）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	○生徒だけでなく保護者からも相談があり、また、教職員から家庭環境についての相談が多く、改善を図っている。	
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	C	B	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

実績を見ると相談者が多い、場所を見直せば、まだまだ増えると思う。例えば先生に対する不信感がある場合、カウンセラーへ相談する環境を充実してほしい。
子どもたちが心の不安を聞いてもらえる場所があるだけで良い事だ。
出来れば常駐というかたちでいてほしい。
今後、増員を期待している。

評価委員意見（平成28年度）

不登校の生徒が増えていると感じる。カウンセラーの増員や相談施設の設置など県費だけでなく、町費でも対応するなどニーズに対応して欲しい。

事務事業評価シート

施　策　名	道徳教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	ふれあい教育フェスティバル	担当者名	冨吉　卓弥

事業の目的・内容	毎月２０日「ふれあい教育の日」「家族ふれあい読書デー」を啓発する行事。読書や読み聞かせをとおして、人と人とのふれあいやコミュニケーションを深める機会とする。			
事業の対象	小学生、中学生、成人			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	198 千円	161 千円	231 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２８年１０月２日（日）　　１２：３０～１５：００ 野辺地町立体育館　　参加者：２５０名 ・弘前市豊田児童センター一輪車クラブによる一輪車の演技 ・野辺地カトリック幼稚園園児によるマスゲーム ・野辺地高等学校家庭科クラブによる地元名産品ＰＲ活動の発表 ※当事業は、社会教育スポーツ課と隔年で実施。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	・出演について交渉しているが各団体の日程調整に時間を要した。 ・チラシやポスターを作成し学校への配布や掲示依頼したが、広報への掲載が遅れ、広く周知することが不十分であった。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

関係者の集まりという感じもする、幅広く興味も持ってくれるような工夫が必要。文字に触れる機会をもっと提供してほしい。
緊急メールを利用して保護者あてにお知らせしてはどうか。

評価委員意見（平成28年度）

自分の子供の出番が終わると、皆、帰ってしまう。
最後まで観客が帰らないような魅力ある企画にしてもらいたい。
人と人とのコミュニケーションが深まるような体験型のイベントも含めて行えば、事業の目的（ふれあい教育）にも合致したものになる。
家族とのふれあいだけでなく、参加した第３者ともふれあいが深まる。

事務事業評価シート

施　策　名	特別活動の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	小・中学校作品展の開催及び音楽交歓会の開催	担当者名	木村卓磨

事業の目的・内容	小中連携事業の一環であり、特に音楽交歓会においては、幼稚園や高等学校と交流する機会を設けたりしている。			
事業の対象	町内の幼児、児童生徒			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	58 千円	60 千円	60 千円

事業の実績・成果等（数値）	・作品展については絵画・版画合わせて２９１作品から入賞作品１８０点が選ばれた。今年度より版画作品においてドライポイントに挑戦し、児童生徒の制作意欲を高めるとともに、忍耐力や集中力の育成を図った。 ・音楽交歓会については、野辺地小学校の体育館を会場として行った。各小学校５・６年生、中学校吹奏楽部、ゲストのカトリック幼稚園が発表を行った。来場者は約２２０名で前年より６０名の増であった。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	児童生徒の芸術的感性が培われるとともに、地域住民への町の子どもたちの活動発表の場となる。	
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	B	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

保護者以外にも早目に周知してほしい。
発表の場があると指導力の向上につながるので良い。
心を育てていく良い時間となる。
がんばる意欲が育まれる、芸術に関して関心をもつと思う。
昔、町内の体操大会があって緊張感と憧れをもってのぞんでいた、それで体操の競技力が上がっていった。これと一緒、緊張感と憧れを与えるためにも必要。
上と下の交流として大事である。
モチベーションが高まる。
ＰＲの方を考えてほしい。
イベントなどあれば決められた町内の掲示板に貼るというところがあれば良い。

評価委員意見（平成28年度）

発表の場があるだけで、子供の意欲と先生の指導力の向上になる。
一団体だけでもプロフェショナルの団体を呼んで、本物の音楽に触れる機会があれば良いと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校給食共同調理場
事務事業名	バイキング給食の日	担当者名	橋 本 幸 子

事業の目的 ・内容	・取り方のマナーを学び若小・馬小は、宿泊学習・修学旅行の事前顔合わせとして実施する ・食事を自分で選ぶ能力を身に付け、主食・主菜・副菜をバランスよく、 　また苦手なものにチャレンジする ・出前授業を行い、食育指導の実施する。 ・非常食を準備１年ごとに入れ替え非常時の備える
事業の対象	バイキング給食：小学校５年生 食育指導：小中学校児童生徒

事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	0 千円	30 千円	30 千円

事業の実績 ・成果等 （数値）	・非常食　非常時に使用するレトルトカレーを準備した。 ・栄養教諭による食育指導は、小・中学校すべてで実施できた。 （指導状況）　野辺地小学校　９　回　　馬門小学校　　１　回 　　若葉小学校　　８回　　野辺地中学校　３　回 ・バイキング用の大皿やデリカバット、プレートを購入した。 ・バイキング給食は小学校５年生で実施し、給食で実施していないメニューを実施した。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	成果　栄養士による食育指導により、嫌いなメニューも食べるようになった 子供が好きなメニューを取り入れているためバイキングを楽しみにしている 課題　食育指導について、小・中学校で回数を増やしたりセンター見学を実施してほしい 　　バイキングは、材料費がかかるため給食費がぎりぎりである
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

良い思い出として継続してほしい。
食育指導に対して少しでも予算対応してほしい。
食育指導は非常に大事だ。落ち着かない子どもの食生活を見ると親の食事のとらせ方にある。
生きることは食べる事。大皿が不足していることに関してはレンタルでいいかなと思っている。
バイキングならではのマナーがあると思う、それも一緒に勉強できればと思う。

評価委員意見（平成28年度）

とても楽しい企画だと思う。
材料も野辺地産の食材を使って、郷土料理も盛り上げていってはどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学童スキー大会の開催	担当者名	柴崎　駿

事業の目的・内容	①町内の学校の冬季体育（学校スキー）交歓を通して、運動能力の向上を図る。 ②大会参加を目指して練習・努力する過程を通して、人間性の育成を図る。 ③ルールに従い培った能力を表現する活動を通して、正しい競技参加能力を育てる。			
事業の対象	小学４年、５年、６年生			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	271 千円	274 千円	290 千円

事業の実績・成果等（数値）

平成２８年度は５１回を迎えた大会であったが、降雨のため途中中止となった。
教育振興会が主催の事業であり、運営に係る費用は町からの補助金となる。
この補助金の使い途としては、主に児童を送迎するためのバス借上げ料が半分を占める。※H28バス借上料　補助金142,560円　町予算87,760円

○参加児童数の推移（4年、5年、6年生の合計）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度(推定)
野辺地小学校	190 人	182 人	170 人	174 人
若葉小学校	119 人	110 人	103 人	104 人
馬門小学校	28 人	24 人	26 人	27 人
（合計）	337 人	316 人	299 人	305 人

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	コスト縮減面では、バス料金のさらなる改訂に伴い、運賃がさらに上昇したため影響が大きい。 運営面でも、保護者の協力が不可欠であり、児童減少に応じた大会規模の検討が必要と思われる。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	B	B	A	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

スキーは野辺地の伝統でもある。このような大会があるだけで励みになる。
手伝いする人が減っているらしいが、高齢化している中で若い人たちを引き込んでほしい。
このような大会の緊張感を子どもたちに経験させることは非常に大切なことだ。
スタッフ不足の解消を図ってほしい。
手伝ってくれる方も高齢化しているので、今のうちから継続できるように充実を図ってほしい。
クロカンのコースが野辺地にある、それだけで素晴らしいことだ。野辺地の宝物ですので是非、活用していただきたい。
スポーツクラブと学校など教育機関との連携を深めてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

スキー大会があるだけで、子供たちの励みになる。
手伝いをする人が高齢化しているので、若い人を巻き込んでもらいたい。
保護者が協力するにも、平日だと難しい。

事務事業評価シート

施　策　名	体育・健康教育の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	大会派遣費補助事業	担当者名	木村卓磨

事業の目的・内容	小中学校の部活動、スポーツ・文化活動において大会へ参加するための交通費や宿泊費等を補助する事業であり、保護者の負担を軽減するとともにスポーツ・文化活動の振興を図るものである。			
事業の対象	小中学校、スポーツ少年団など			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	5,310 千円	4,602 千円	5,400 千円

事業の実績・成果等（数値）

小学校及びスポ少では３大会３２７，７９６円、中学校及び各種協会では２３大会４，２７４，２１０円の補助を行った。選手や引率・指導者合わせて６００名以上が対象となった。

・中学校・・・・１８大会　３，６８４，２６０円
・各種協会・・・　５大会　　５８９，９５０円
・小学校・・・・　０大会　　０円
・スポ少・・・・　３大会　　３２７，７９６円

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

要綱を制定したことで、これまで中学校のみ補助対象だったものがスポ少や各種スポーツ協会まで補助できるようになった。本事業を利用し、町内の児童生徒がよりスポーツ・文化活動に取り組みやすい環境となってきている。
指導資格等を保持しない指導者への資格取得を促すきっかけとなっている。

今後の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	B	A	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

部活だけでなくスポーツ少年団のほうまで範囲が広がっているから良い。
旅費の負担も軽減されるので心配もなくなる。
指導者への資格取得について、ちゃんとフォローしてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

指導者の資格の取得について、予算を付けて欲しい。
決算書を提出してもらうなど、補助金の使い道を明確にしておけばよいと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	生徒指導の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	生徒指導委員会の充実	担当者名	冨吉卓弥

事業の目的・内容	○小・中・高で連携し問題行動のある子を指導見守りしていく体制を整える。 ○中1ギャップの解消のため、小学６年生を対象に出前授業を実施。 生徒指導委員会活動費　10千円			
事業の対象	小・中・高生徒指導教諭・警察・上北教育事務所・教育委員会・健康づくり課			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	10 千円	10 千円	70 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成28年6月～平成29年1月 年５回生徒指導委員会を開催。 小学校・中学校・高校・警察・上北教育事務所・教育委員会・健康づくり課の職員で情報交換を行い、児童生徒の問題行動に関し情報共有することにより、問題解決に町ぐるみで取り組んだ。 夏祭り期間の巡回指導や、交通安全運動に合わせて登校指導の実施や中１ギャップの解消として中学生が各小学校を訪問し中学校生活を説明した。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	○学校、教育委員会、警察等情報の共有ができ、問題行動に町ぐるみで取組み成果を上げた。 ○中１ギャップの解消として行っていた出前授業の訪問については、平成29年度からは中学校の1日入学の際に、中学校生活について説明を行う予定である。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	A	B	A	B	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

夏祭りと中間出校日が重なってしまい残念だ。
いじめ防止対策として、校内に防犯カメラを設置してはどうか。
問題行動を起こす前の子どもをどのように指導していくかを目的としていくことが必要。
中学校の夜巡回をやったところ、知っている子どもがけっこういたが、声掛け会話することが町中でたくさん出来れば、問題行動を起こす前に防ぐことがでるのかなぁと感じた。

評価委員意見（平成28年度）

中１ギャップの解消など情報交換の場として、重要である。
夏祭りの見回りは、学校にいる時とは違う子供の姿、表情が見える。
親達や町民が、子どもを見守っているとのサインになり良い。

事務事業評価シート

施　策　名	生徒指導の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	小1プロブレム、中１ギャップの解消	担当者名	冨吉卓弥

事業の目的・内容	中1ギャップの解消のため、小学６年生を対象に出前授業を実施。 生徒指導委員会活動費　10千円			
事業の対象	町内各小学校６年生・中学校１年生			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円
事業の実績・成果等（数値）	・中1ギャップ解消のため、小学校6年生に「生徒指導小学校出前授業」を実施。出前授業の際に、中学生が同行して中学校生活について体験発表を行う。 ・中学校教諭が小学校へ行って英語の出前授業を実施。 ・「小中連携だより」を年数回発行。			

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	中学校英語教員が小学校へ出前授業することで、 進学後の速やかな指導が期待できる。	
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

【削除】

事務評価委員の評価

総合評価	―	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		―	―	―	―	―	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

中１ギャップは中学校が対策として頑張っているのであって、町教育委員会が主体となって実施しているのではない、どのような評価をしたらいいのか分からない。
縦の連携と委員会は声を出しているが、やっているのは学校である。さらに、小１プロブレムに関してもしかりである。関わっているとすれば、サポーターの配置かな。
サポーターの更なる活用と教育委員会としてのバックアップをお願いしたい。
これについては、中学校は頑張ってくれている、それに対して私がＣという評価は失礼だとは感じる。逆に町の取り組みとしては、なってないなぁと感じる。事務評価だから委員会の事務という見方で言えばＣである。
小１プロブレムについては、全然頭になかった。中１ギャップについては中学生が小学校へ出向き中学生が学校生活について小学生に説明するということを自分の子どもたちから聞いてとても楽しかったと言っていた。だからＢとした、でも、学校の現状について、サポーターの必要性を理解していない教育委員がいるということを聞いて残念だ。現場に行かなければ分からないことってたくさんある。
東北町の小学校へ行ってるが、先生方はとにかく忙しい。
教育委員会がどれだけこの事業にかかわっているのか疑問に感じるが、必要性は感じた。
中身を充実せてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

平成２８年度から削除
評価なし

事務事業評価シート

施　策　名	キャリア教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	職場体験	担当者名	冨吉卓弥

事業の目的・内容	キャリア教育を目指し、社会に出てから実践に役立つ経験をするため町内事業所に協力してもらう。			
事業の対象	中学校3年生・小学校2年、6年生			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	10 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）
野辺地中学校：11月に職場体験を実施。 町内事業所約32事業所で職場体験を行い、学校外で仕事を体験したり、普段気が付かない仕事などの裏側を体験し、事業所の方からのアドバイスをうけながら貴重な体験をしている。 野辺地小学校：９月に職場体験を実施 若葉小学校：６月に生活科の授業の中で町内６事業所の訪問を実施した。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	役場でも職場体験を積極的に受け入れ成果を上げた。 今後もキャリア教育は、重要と思われるので、町ぐるみで取り組みが必要。	
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

事業所の分野を広げたら面白いのでは。
観光協会へも来てほしい。
学校現場は忙しいので先生方が各事業所にアプローチするというのは大変なので、例えば委員会のほうで職場体験を受け入れてくれる事業所をリストアップしてくれるとか、そういうのがあれば良いと思う。
児童生徒から体験する職場の希望をとって抽選から漏れてしまった子どもに対して、自分の希望と違う職場へ行ってしまったとき、逆に良かったという気持ちになればよいなぁと思う。
もっと町ぐるみで協力者を募ってほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	特別支援活動の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	スクールサポーター配置の充実	担当者名	原　裕平

事業の目的・内容	発達障害をもつ児童生徒や学校生活に適応が困難な児童生徒に対し、教職員の補助として見守り等に関わる。			
事業の対象	児童生徒			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	9,726 千円	11,838 千円	12,999 千円

事業の実績・成果等（数値）

○配置人数の推移

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
野辺地小学校	2 人	1 人	3 人	3 人	3 人
若葉小学校	3 人	1 人	2 人	3 人	3 人
馬門小学校	1 人	1 人	1 人	2 人	3 人
野辺地中学校	2 人	1 人	2 人	2 人	2 人

傾向として見守りが必要な児童生徒、問題行動を起こしやすい児童生徒、落ち着きが無い児童生徒が年々目立ってきている傾向が感じる。

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

学校側からの様々な予算要求の中でも、このスクールサポーターは強い要望がある。あくまでも、先生の補助としての役割りであるが、今後はスクールサポーター向けの研修などを企画して資質向上を図れればと思う。

今後の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

特別支援活動の充実というよりも、学力向上の充実へ向けた役割りとして非常に必要だと思う。

小１プロブレムの解消にスタートカリキュラムで最初が非常に大事になってくるので、早い４月の段階で落ち着かせることが、すべての子どもたちを落ち着いて学習させるために、保育園から小学校へ入る段階でいかに手厚くするかにおいスクールサポーターの役割りは大きい、さらに充実させてほしい。

スクールサポーター向けの研修が必要だと思う。先生方の中には子どもたちに対して大きな声で怒ることがある。大人の私が驚くほどだ、事例的なのも踏まえ先生の理解度を高める研修というのも必要だと思う。

これって、指導する側がどう取り組むのか持って行き方を上手く考えなければ活用できないものだ。怒らなくてもいいために、サポーターに入ってもらう、１年生くらいはイライラすることがいっぱいある。先生一人でやっていれば、昔の先生なんかよく声をつぶしてしまう、それが無くなる、優しく接するために支援員の方の役割りがある。１年生は話を聞けない子がいっぱいいる。先生と支援員が上手く連携するようなサイン、合図、なんか出し合える関係になれば良い。

東北町で複式学級を支援しているが、サポーターとして着いていくのがやっとのときがある。先生との内部的な研修が必要だと思うが、なかなか難しい。先生方、とても大変である。最近はその日の先生の表情で機嫌が分かり先生への接し方に気をつけている。

学習が遅れがちな子どもにサポーターを補助することは非常に良い事だと思う。

ケツメイ茶で学校へ行く機会があるが、何故かその子ども一人に集中している姿を見る。私らの目の届かないところでも先生は注意している、すごいと思う。

さらに、補うためにも必要と思う。現場の声を聞けて良かった。

評価委員意見（平成28年度）

これからも学校の状況に合わせて人員の配置をお願いしたい。

事務事業評価シート

施　策　名	エネルギー・環境教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	エネルギー教育の整備	担当者名	小又　美穂

事業の目的・内容	理科の授業を始めとするエネルギー教育の充実を図るため、備品購入を整備する。 原子力や風力等のエネルギーについて理解を深め、自ら考え判断する力を身に付けるための教育の充実を図る。			
事業の対象	児童生徒			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	376 千円	394 千円	589 千円

事業の実績・成果等（数値）	１校合計３点３９３，９８４円の備品を購入し、理科や総合の授業で使用した ・馬門小学校・・・・３点　３９３，９８４円

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	全額県の補助となっている。整備が進んでいたり理科教諭の関心の度合いによって購入数に偏りがある。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

備品納入まで時間がかかる。
放射線関係の授業はいらない。
あとの備品がきてすぐに実績報告書を求められる。県に対して改善を要望してほしい。
良くわからないが、やる意味があるのかな。
国の政策によってはエネルギーのどれを推薦すればよいか、偏ってしまうのではないかと感じがするので、判断が難しい。本当に真実を教えてあげれるのかなと感じる。あまり深くは入らないほうが良いのでは。
原子力に特化しているわけじゃない、太陽熱でお湯沸かしたりするのを主として、もうしわけない程度の放射線測定したりという感じでもある。
偏らず、平等にエネルギーとして勉強していただければと思う。

評価委員意見（平成28年度）

備品の納入まで時間がかかり、やっと来ても報告書に手間がかかる。
学校で素早く利用できるようにしてもらいたい。
備品のリストを作り、各校で共有して使える仕組みをつくれば良いと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	国際化、情報化に対応する教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	英語で元気な町づくり事業	担当者名	小又　美穂

事業の目的・内容	英語指導を行う外国語指導助手（ＡＬＴ）の派遣事業。小学校からの英語コミュニケーション能力育成により中学校への円滑な移行を図るとともに、幼少期からの英語指導により英語教育に順応しやすい児童生徒の育成を図る。		
事業の対象	児童生徒及び幼児、一般町民		
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	4,666 千円	4,601 千円	4,546 千円

事業の実績・成果等（数値）
ＡＬＴを各小・中学校、野辺地保育園、野辺地カトリック幼稚園及び公民館等へ英語指導に配置した。 ・各幼保小中への配置による英会話や異文化理解指導。 ・イングリッシュデイの開催。（１１月３日　１７名参加） ・幼児への英会話体験及びその親への英語教育支援の実施。（毎週１回）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	各小中学校及び保育園や幼稚園での指導の他、一般町民や親子での英語教室でも指導を行い、世代を問わず英語に触れる機会の提供ができた。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

非常勤で指導者も入っているので、非常にありがたい。
町中に英語があふれてくれば良い。将来、英会話ができれば良い。
町民一丸となって英語に慣れ親しむ国際化になってほしい。そういう足がかりとなってほしい。
もっと身近に感じれるようになってほしい。
ＡＬＴのサポートがほしいところです。
さらに充実を図ってほしい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	国際化、情報化に対応する教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	まちづくりＡＬＴ派遣事業	担当者名	小又　美穂

事業の目的・内容	英語指導を行う外国語指導助手（ＡＬＴ）の派遣事業。中学校への常駐により中学生の英語学力の強化を図る。また、就労者向けの英検対策教室での指導等により、大人の英語力強化を図ることでまち全体として国際化に対応し得る人財を育成する。			
事業の対象	児童生徒及び幼児、一般町民			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	2,717 千円	4,594 千円	4,546 千円

事業の実績・成果等（数値）	ＡＬＴを野辺地中学校へ常駐させ、生徒との授業内外での交流を増やすことで中学生の英語への抵抗力の軽減を図った。主な活動は以下のとおり。 ・１年を通して中学校へ常駐 ・社会人向け英検対策教室の実施（毎週１回） ・商店街英語ポップの作成

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い

評価説明及び考察、課題	本ＡＬＴは既存のＡＬＴの役割に加え、まち全体として英語に親しめるような取組を行う人材として委託している。中学校での常駐により、以前に比べて中学生の英語への抵抗感は薄まったようである。社会人を対象とした英検対策教室は２名が英検に合格した。
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	C	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

放課後児童クラブと組み合わせてはどうか。
パンフレットの作成は観光協会としては非常に助かったが、日本語も併記してほしかった。
子どもたちへ英会話の機会をつくってくれることは有り難いけど、判断つかない。
担当者がすごく頑張っている姿をよく見かけていた担当者の評価を尊重します。
親からすると日本人が勉強した英語ではなく、外人の本当の生の英語を体験させることが大事だと感じる。
生の英語に触れさせる機会を頑張って作ってほしい。
担当者が一人で頑張っているような気がする。
民間と連携しても良いと思うし、もっと活性化してほしい、ＰＲ不足である。

評価委員意見（平成28年度）

担当者を増やして、より活性化して欲しい。

事務事業評価シート

施　策　名	国際化、情報化に対応する教育の推進	担当課名	学校教育課
事務事業名	児童生徒及び教師へタブレット端末導入に向けた検討	担当者名	柴崎　駿

事業の目的・内容	文部科学省では、2010年代中に児童生徒一人一台の情報端末（タブレット）による教育を推進しており、平成31年の導入に向け検討するものである。 また、現在、各学校に設置されているパソコンは耐用年数が経過しており、更にＯＳのサポートも終了されたため、取り換え時期にもなっている。
事業の対象	教職員及び生徒など

事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
		135 千円	39,701 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）

☆教育ＩＣＴシステムの導入

タブレット端末を授業支援システム等を含めた複合システムとして各校に導入した。

①4月：アンケート調査　6月：情報教育研究委員会開催　7月：仕様書の確定

②8月：入札執行　9月：議会議決を持って契約完了

③12月～1月：機器導入、システム構築　2月：導入研修

内容：パソコン教室のデスクトップ型ＰＣをタブレットＰＣに交換（計100台）

授業支援・教材システム及び無線ＬＡＮ導入、可搬用モバイルルータ及びシステム処理用ノートＰＣ導入

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	□ おおむねできている	■ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い

評価説明及び考察、課題

試験的な使用が可能なように、普通教室での使用を想定した機器の導入を実施した。想定していた導入時の研修が実施されず、使用方法や授業での利活用方法など十分に教職員に周知できていない。研修の実施やＩＣＴ支援員等のソフト面でのバックアップが必要と考える。

今後の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		C	C	C	C	C	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

研修については、まだ先生たちが望んでいる内容ではなかった。
タブレットの活用は先生がプリント作成する時間も短縮できる。
サポーターの関わりも含め全体的な学習方法を考えることで効果が上がると思う。
ソフト面の整備を含めて大いに期待している。
どんどん進めてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

専門知識を持った指導者を配置することが必要だ。
宝の持ち腐れにならないよう、次に活かして欲しい。
この次の対応が重要だ。

事務事業評価シート

施　策　名	研修の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教職員ふるさと研修	担当者名	原　裕平

事業の目的・内容	着任された教職員の方に野辺地町をよく知ってもらうことで、今後の児童生徒の学習指導に活用されることを目的とする。			
事業の対象	・教諭等として新たに任用された職員（初任者） ・野辺地町に初めて着任した教職員 ・５年以上野辺地町を離れていた教職員			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	2 千円	2 千円	2 千円

事業の実績・成果等（数値）	○視察場所 歴史民俗資料館、行在所、常夜燈公園、漁協、十符ヶ浦海水浴場、農協、あったかハウス、松浦食堂（郷土料理：茶飯定食） ○講師 歴史を探る会　会長　鈴木幹人 教育委員　野坂幸子

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	研修内容がどちらかと言えば小学校教諭向けに感じる。 観光スポットを含める等の見直しが必要。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	C	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

町の良さのアピール不足。観光にスポットをあててみてはどうか、発想の転換をしてほしい。
例えばスタンプラリーなど参加したいと思わせる企画をしてほしい。
年度始めの教育振興会の総会に含めて野辺地を紹介してはどうか。
４月の総会でもっと野辺地のことをＰＲしたあと、見に行きたくなるような気持ちなればいいなぁと思っていた。参加した先生の意見としては、副読本の説明は無くてよいと思った。昼食の茶飯定食は希望をとって食したらよいのでは、自己負担をもとめるのではなく、予算化して欲しい。
歓迎される立場だったら副読本の説明は嫌だなぁと感じる、おいしいお店を紹介してもらいたい。歴史もいいけどお店やお菓子を紹介しても良いと思います。
野辺地町を好きになってもらい、子どもたちへ伝えてほしい。
食べるのも歴史がある、何かテーマを決めて織り交ぜた内容にするのも一つかなと感じた。
是非、総会のとき時間を設けてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

参加した先生たちが良かったと言っていたので良し。

事務事業評価シート

施　策　名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	野辺地町立小中学校耐震化事業	担当者名	柴崎　駿

事業の目的・内容	平成27年度の小学校耐震化工事により町内すべての小中学校の構造体（建物）の耐震化は完了した。引き続き、東日本大震災で多くの被害が発生した、天井等の非構造部材の耐震化を実施することになった。			
事業の対象	小学校施設（野辺地小学校、若葉小学校、馬門小学校）			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	325,728 千円	11,413 千円	138,206 千円

事業の実績・成果等（数値）	（内訳） ① 野辺地町立野辺地小学校外２校講堂天井等耐震化工事設計業務 （小学校３校の講堂天井等耐震化工事の設計業務） 設計業務委託費：9,684,360 円 ② 野辺地町立野辺地中学校講堂天井等耐震化工事設計業務 （野辺地中学校の講堂天井等耐震化工事の設計業務） 設計業務委託費：1,728,000　円

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	□ おおむねできている	■ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	既存天井の撤去・改修に加え、危険な状態であった遊具の撤去、再設置後照度不足やランニングコストの面からLED照明化を検討し、設計に加えた。工期についても、学校側と協議し、工事期間の設定や工事期間中のバスの手配等の調整を実施した。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

これが評価項目に何故あがるのか分からない。
評価するならＣ、夏休みに工事を持ってこられなかったこと、学校側の我慢に成り立っている。評価は低い。マイク使わなければダメなくらいだった。
先日の台風で校舎が雨漏りしたという話を聞いた耐震とは関係ないが、まだまだ改善しなければいけないと思う。
町外の業者が施工していたことが残念、町の運営を考えれば地元業者を使ってほしい。
私は評価できない。
町内の業者を関わらせるような工事の進め方をして欲しかった。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校施設営繕・設備保全	担当者名	柴崎　駿

事業の目的・内容	教育施設の維持管理及び修繕工事を実施し、 安全・安心な学校づくりを目指している。		
事業の対象	各小学校		
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	5,062 千円	3,185 千円	1,288 千円

事業の実績・成果等（数値）

1．実施工事

①	野辺地小学校手摺他工事	： 638,280円
②	野辺地小学校グラウンドトイレ等解体撤去工事	： 426,600円
③	野辺地小学校廊下床改修工事	： 934,200円
④	若葉小学校光用配管工事	： 559,440円
⑤	若葉小学校普通教室床改修工事	： 626,400円

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	限られた予算の中で優先度を検討し、必要最低限の改修等は実施した 全小学校施設における老朽化への対応策が課題となっている。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	C	C	C	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

個人的な感情としてはＡだけど、やっていることは不備な点があるけど、限られた予算の中で担当者は素早く対応してくれていると思う。
用務員さんもとても働いてくれる、今どき用務員と呼ばれていることが古い、用務員が小遣いのような感覚で呼ばれていることが、町として恥ずかしい、技能主事、技能員とかに見直すべき。
学校への対応はあったかみは感じるけど、用務員さんに対しては名称を変えていないことは、根本的に差別化しているのかなと感じている。
用務員さんの名称を変えてほしい。
いづれ新校舎へ向かう方向で考えてほしい。
いろいろと先生方からの要望にも応えている人を用務員と呼ぶことは失礼だ。

評価委員意見（平成28年度）

担当者が予算の少ない中、一生懸命に現場に足を運んで対応している。
以前に調理実習や理科の実験で電気を使った時に、ブレーカーが落ちた学校があったが、これからも支障のないよう対応してもらいたい。
今後も現場の意見を吸い上げて継続してもらいたい。
優先順位を付けて対応してもらいたい。

事務事業評価シート

施　策　名	教育環境の充実	担当課名	学校教育課
事務事業名	教材備品の整備	担当者名	小又　美穂

事業の目的・内容	毎年度実施 　教育課程にもとづき授業を実施するうえで、児童・生徒の心身の向上や能力向上のための備品を購入するもの。また、既存備品が古くなったり、故障や破損して使えなくなったりする場合の修繕等をおこなうもの。
事業の対象	教員及び児童・生徒

事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	5,052 千円	4,355 千円	4,808 千円

事業の実績・成果等（数値）	野辺地小学校1,039,316円（一般備品等498,960円、教材備品等322,020円、特別支援用備品218,336円）、若葉小学校1,003,813円（教材備品等991,717円、特別支援用備品12,096円）、馬門小学校262,827円（一般備品等139,368円、教材備品等117,816円、特別支援用備品5,643円）、野辺地中学校699,512円（一般備品等253,472円、教材備品等446,040円） 楽器1,350,000円（野辺地小学校、若葉小学校、野辺地中学校） 　毎年１１月末の来年度当初予算編成へ向け、各小中学校が必要な備品を取りまとめ教育委員会へ提出。教育委員会は学校が要望した備品について担当者から聞き取り、必要性を検討、精査してから町部局へ予算要望している。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	各校とも学校整備に要する備品や授業等に要する備品の劣化や損壊があり、備品費の増額が余儀なくされている。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	A	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

　使わなくなった楽器の整理整頓がされてない。
　担当者の対応の暖かさがプラスにつながっている、財政が関わっているので仕方がないかあと思う。不便はそんなに感じられない。Ａ３が出来ない印刷機を導入させられても困る。
　備品については、学校と確認を密にしてほしい。
　学校間で融通できるものは使いあえるつながりを持たせてほしい。
　今はＡ版サイズが主流です、配慮が足りない。
　現場の声をしっかり聞いてほしい。

評価委員意見（平成28年度）

今ある備品を長く使えるように、管理状態を良くしてほしい。
備品のリストを作り、各校で共有して使える仕組みをつくれば良いと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	その他	担当課名	学校給食調理場
事務事業名	給食費の未納対策強化	担当者名	橋 本 幸 子

事業の目的 ・内容	学校給食費の未納者を減少させる。 ・過去の未納者からの徴収。　（昭和63年から）　特に平成２５年度から重点的に解消する ・児童手当からの引き落としを了承してもらい未納額減少に努める。 ・要保護世帯は、学校長から上北県民局に納付を依頼し、年度末に全額徴収する。 ・準要保護世帯は、給食費を免除している。
事業の対象	小・中学校の給食費未納世帯 昭和63年からの未納世帯

事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	111 千円	165 千円	217 千円

事業の実績 ・成果等 （数値）	徴収対策　時間外手当　16,500円/年　　日中の徴収が可能な家庭は、時間内実施 ・毎月　電話催促、臨戸訪問による徴収、納付書の送付。　7月に催告書の送付 ・児童手当からの引き落とし強化の結果2,354,280円の給食費を児童手当から引き落した ・「給食利用申込書」を各世帯から徴取する利用申し込みの中に承諾書を加える （給食費をおさめれないときは、児童手当からの引き落としをしてもよい。の承諾書） 調定額　42,238,110円－　収入額41,943,020円＝　未納額　295,090円 徴収率　99.3%　（H28）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	成果　　平成28年度　滞納徴収額　2,791,050円　H2からH27まで うちH25～H27　滞納収入額　991,810円　98.59% 課題　不能欠損処分ができるよう今後対策を考える。 保護者が死亡したり、住所不明者の滞納額が多くある。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

まず、対策を取っていることが評価できる。
これからも継続して頑張ってほしい。

評価委員意見（平成28年度）

過去の滞納の解消は仕方ないが、現在はきちんと対策ができている。

事務事業評価シート

施　策　名	その他	担当課名	学校教育課
事務事業名	就学援助費事業	担当者名	小又　美穂

事業の目的・内容	経済的な理由で町立小・中学校への就学が困難な家庭及び 特別支援教室等で就学している児童生徒世帯への就学援助			
事業の対象	野辺地町内小・中学校			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	6,860 千円	7,467 千円	8,059 千円

事業の実績・成果等（数値）	要・準要保護就学援助費及び特別支援就学奨励費 （小学校）3,471,863円、　（中学校）3,994,929円 　経済的な理由で町立小・中学校への就学が困難な家庭が、安心して教育を受けられるように、給食費、学用品費、通学用品費、新入学児童生徒学用品費、校外活動費、修学旅行費、体育実技費などを援助する制度。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	援助費の支給や県への申請、要綱の改正など滞りなく行った。 補助対象となった保護者の申請への気苦労を軽減できるよう、 各校事務担当と連絡を密に取りながら事業を行っている。 また区域外就学などにより対象となった児童生徒に関しても 周辺市町村との連携を図っている。	
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	A	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

実状にあった継続をお願いしたい。

評価委員意見（平成28年度）

各委員の評価付けのみ。評価意見は主に前年度と同じ

事務事業評価シート

施　策　名	教育委員の活動	担当課名	学校教育課
事務事業名		担当者名	冨吉卓弥

事業の目的・内容	教育施策についての承認、及び学校教育に関しての意見、議案の審議等を行う。 学校訪問や行事に参加することにより、各学校の現場の状況を把握する。			
事業の対象	教育委員・学校教育課長・補佐			
事　業　費	年　度	平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算
	金　額	542 千円	626 千円	511 千円

事業の実績・成果等（数値）	毎月定例会を開催、教育委員会の行事報告・予定　議案審議等を話し合う。また、教育問題についての話し合いなどがあった場合議題にする。 ※教育委員の参加行事等 ・小、中、高等学校入学式、卒業式へ参加。 ・小、中、高等学校運動会及び各種行事等へ参加。 ・小、中、高等学校へ学校訪問（小、中は２回、高校１回） ・総合教育会議へ参加。（年２回） ・音楽交換会や学童スキー大会及び各学校の行事へ参加。 ・東北六県教育委員・教育長研修会や全国教育委員研修会への参加。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	・各学校の行事へ積極的に参加された。 ・県内教育委員研修会のほか、東北や全国の研修会に積極的に参加し、学校の問題解決（いじめ問題や教師の多忙化など）に向け熱心に議論できた。	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	C	C	C	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

先ほどスクールサポーターのところでもお話ししたが、教育委員の方たちが町の将来の教育について、どんな先見性を持って考えているのか、お聞きしたい。
教育委員の活動がわからないというのが率直な意見だ。
昔の教育のイメージを引きずっている感じがする。
昔の考え方に当てはめようとしている感じがする。
ちゃんと、学校側と教育委員と連携をとれるような活動として活かされれば良いと思う。
私自身、評価するまで熟知していないところもある。

評価委員意見（平成28年度）

教育委員の議論した教師の多忙化問題やいじめ問題に対する対策を明確に示していただきたい。新しい対策やアイディアを出す場として、機能していただきたい。

例えば、不登校児童対策として、フリースクールの設置などアイディアを出して欲しい。フリースクールは、いきなり学校に復帰が難しい児童に対して、遊びの場、学習の場、工作等作業の場、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの場を提供するもので、学校や家庭が安心できる場所にならない児童に居場所を提供し、自信をつけさせる効果がある。

事務事業評価シート

施　策　名	学校支援活動	担当課名	学校教育課
事務事業名	学校支援推進事業	担当者名	冨吉卓弥

事業の目的・内容	学校が地域と一体となって子どもを育む、地域とともにある学校づくりを目指す。地域住民による学校支援活動の充実と一層の活性化を推進する。			
事業の対象	各学校			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	32 千円	69 千円	78 千円

事業の実績・成果等（数値）
・学校支援ボランティア活動を各学校ごとに実施 登下校の指導（見守り隊）　部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、環境整備 などさまざまな学校支援活動を地域の住民等の参画を得て実施した。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	学校ごとの活動内容にばらつきがある。もっと多種のボランティア団体の参加が必要	
今後の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		B	B	A	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

非常にいろいろな面で活動してもらっている。
今後も継続してほしい。

評価委員意見（平成28年度）

ボランティアの方々など非常によく活動してくださっている。
冬は防寒着など購入してあげてはどうか。
ＰＴＡの関係者だけでなく、元ＰＴＡの人たちにも協力を求めてはどうか。
コミニティー（地域）の人たちも巻き込んで、ＰＴＣ（コミニティ）Ａで対応してはどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	学校保健の取組み	担当課名	学校教育課
事務事業名	児童・生徒各種健診及び教職員特定健診	担当者名	木村卓磨

事業の目的・内容	学校保健安全法第１３条に基づき実施し、児童・生徒・教職員の健診等により適正な健康管理を行い、健康で充実した学校生活を送るため実施する。			
事業の対象	児童、生徒、教職員及び次年度就学予定の幼児			
事　業　費	年　度	平成　27　年度決算	平成　28　年度決算	平成　29　年度予算
	金　額	3,419 千円	3,552 千円	4,031 千円

事業の実績・成果等（数値）	児童・生徒の健診については、内科、歯科、耳鼻科、眼科、尿検査を学校医等により全学年を対象に実施。心電図検査は小学1・3・5年生、中学1・3年生を対象に実施。貧血検査は、保護者からの同意を得られた小学5・6年生・中学2・3年生を対象に実施。H28年度から、蟯虫検査および座高の測定がなくなり、新たに、色覚検査と運動器検査の実施を開始した。すべて６月中までに終了した。 教職員健診は、１日ドック・１日健診決定者以外の教職員を対象に健診を８月に一斉に実施した。その後は、欠席者に対し随時実施し、延べ５１名に対して実施した。 就学時検診は、来年度小学校に入学する幼児を対象に１０月から１１月に実施した。延べ８９名に対して実施した。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	病気の早期・発見に繋がっているとともに、生活習慣の見直しのきっかけとなっている。昨年度より色覚検査を各学校で実施できるように備品を整備し、よりきめ細やかな健康診断の推進に努めた。 今年度はオージオメータ（聴力検査機器）を新しく買換え、適切な検査が出来るようにする。また、検査の際に必要な備品等をもう一度見直し、検査・健診料の予算確保をする。		
今後の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H27参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成27年度の評価意見）

評価するのが非常に難しい。
検査項目をこなすだけでなく精度を高めた健診を目指してほしい。
学務の職員は非常に頑張ってくれている、お医者さんは気難しい人が多い。
それに対して、すごく気を使って学校は困らないようにしてくれてる。
内容を考えればやって当り前。

評価委員意見（平成28年度）

医師の対応など学校教育課の職員が気を使って対応していただいている。
必ずやらなければならない健診なので、評価するか難しい。評価からはずしてもよいのではないか。
精度の高い健診を目指して欲しい。